

# 第5期雄武町総合計画 前期実施計画書 兼 事務事業事後評価調書

No. 1501001

政策目標	4 うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	19 消防・救急・防災体制の強化	事業優先度	B	
単位施策	3 消防・救急体制の充実	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	消防団活性化事業	見直し年度		
事業期間	平成20年度～平成24年度	担当課	15 消防支署	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	消防団員数		#N/A	
事業目標	110名	ハード/ソフト事業区分	2 ソフト事業	
住民参加	2	関係例規・法令名		
住民協働		関係個別計画名		

全体計画 事業内容		平成20年度 事業内容	平成21年度 事業内容	平成22年度 事業内容	平成23年度 事業内容	平成24年度 事業内容	
計画内容	団員教育訓練・福利厚生事業 新入団員被服整備事業	団員教育訓練・福利厚生 新入団員被服整備	団員教育訓練・福利厚生 新入団員被服整備	団員教育訓練・福利厚生 新入団員被服整備	団員教育訓練・福利厚生 新入団員被服整備 (アポロキャップ整備・更新)	団員教育訓練・福利厚生 新入団員被服整備	
	事業費(千円)	21,700	3,920	4,720	3,900	4,900	4,260
計画事業費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
	一般財源	21,700	3,920	4,720	3,900	4,900	4,260
実績事業費	事業費(千円)	19,326	3,589	3,832	3,814	4,316	3,775
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
	一般財源	19,326	3,589	3,832	3,814	4,316	3,775
関連事項	(特定財源の詳細等)		(実施内容等) 団員教育訓練・福利厚生 新入団員被服整備	(実施内容等) 団員教育訓練・福利厚生 新入団員被服整備	(実施内容等) 団員教育訓練・福利厚生 新入団員被服整備	(実施内容等) 団員教育訓練・福利厚生 新入団員被服整備	(実施内容等) 団員教育訓練・福利厚生 新入団員被服整備
	【評価・実績】		※前年度評価結果	※前年度評価結果 A—継続/現状維持	※前年度評価結果 A—継続/現状維持	※前年度評価結果 A—継続/現状維持	※前年度評価結果 A—継続/現状維持
	第4期総合計画関連 (継続無し)	年度目標値	102名	104名	106名	108名	110名
		年度達成率	92%	81%	98%	88%	89%
		全体達成率	17%	34%	52%	72%	89%
	事業進捗状況	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	

事業名	消防団活性化事業	評価者 管理職 職氏名	支署長	高見 雄二
		評価者 作成者 職氏名	庶務係長	安本 明志美

平成24年度実施  
平成25年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	団員(町民)	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	消防団員の確保、訓練等による組織の活性化	
【抱える課題やニーズは】	若年層の新規入団を望んでいるが、地元での就職が減少しているため、入団者対象者が少なく、消防団の魅力をアピールし、入団を促進することが課題である。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	消防団活動が活発になる。	① 消防団員数	目標年度	平成24年度
			目標値	110人
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	・消防団員数の確保(男性団員100名・女性団員10名) ・消防団員の技量向上	② 訓練回数	実績値	102人
			達成度	92.7%
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	広報活動	雄武町広報紙及び、チラシ等配布		
	呼びかけ	団幹部から協力事業所等への呼びかけ		
	被服支給	新入団員に被服を支給(災害現場活動をするための特殊被服)		
	福利厚生	毎月 消防新聞を購入し配布		
	訓練費用	災害を想定した訓練時に出勤費を支給		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	町民の生命財産を災害から守るため、各種訓練・研修を通じた団員の技術向上を目指す上においても必要とされる。また、団員の中も高齢化が進む中、若年層の新規入団も必要とされる。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	訓練等技術向上を目指すべく、各種研修会の出席率についてはほぼ達成されているが、団員数については110名定員のところ102名と下回り、高齢団員7名の退団に伴う若年者6名の入団、また、そのうち女性消防団員1名の入団があったことは、目標がほぼ達成されたものとする。
	<input type="checkbox"/> 達成	
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	研修日数を削減し、訓練回数を増やしたことにより、団員の技術や精神面が向上し、その結果、災害現場での活動がスムーズとなり、時間短縮につながったものとする。また、団員確保に向けて町内企業に団員入団促進協力と呼び掛ける。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input checked="" type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
課題あり	<input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

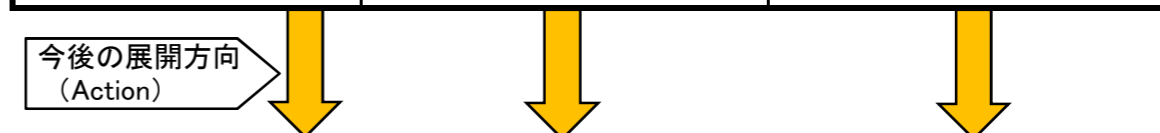
公平	判断の理由	事業は全町民を対象とした事業により、公平と考える。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
公平でない	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等  
 B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等  
 C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等  
 D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
定員数110名を目標にしている中、24年度にあっては高齢団員の退団者7名に伴い、若年者の入団6名と、その中でも女性1名の入団があったことは、ほぼ目標が達成されたものと言える。この結果出席率が向上した。		



継続/現状維持		
町民の防災意識の高まりや町としての防災体制の重要性を考えると、今後も継続していく必要がある。また、女性消防団員の増員を図る。		

※展開方向の区分  
 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更  
 終了  休止  廃止